

# 高島総合家畜市場の現状と今後の運営状況の想定について

○田中 政嗣、藤井 賢一

## 1. はじめに

高島総合家畜市場（市場）は、「家畜の円滑な流通及び家畜価額の適正を確保し、有畜産農業経営の安定と畜産業の発展を図ること」を目的とし、「高島市長および高島市内を管轄とする農業協同組合の役員等をもって組織」する「高島総合家畜市場運営協議会」が、県から昭和31年12月13日付けで家畜市場登録証の交付を受けて開設しており、現在は、家畜保健衛生所北西部支所が事務局を担い、年に3回（3月、7月、11月）のせり市を開催し、基本的に和牛子牛の受託販売を行っている。今回、滋賀県内の和牛生産を取り巻く情勢を踏まえた市場の現状と、今後の運営状況の想定について報告する。

## 2. 現状

近年、和牛繁殖農家や受精卵移植による和牛子牛を出品する酪農家の減少をうけ、県内農家からの市場への出品頭数は減少している。平成31年春季市場以降の出品頭数は、バラツキはあるものの令和4年以降では46～52頭と安定している（図1）。しかしながら、滋賀県畜産技術振興センター（以下、畜技センター）を除いた出品農家戸数は減少傾向にあり（図2）、平成31年春季市場以降に出品された和牛繁殖農家8戸のうち6戸がすでに廃業し、高島市内の繁殖農家からの出品は令和4年秋季市場が最後となり、また酪農家からの出品もない。1頭当たりの平均セリ落とし価格は、全国的な和牛子牛の価格低下と同様に低迷しており、令和4年春季市場では585,478円であったものが、令和5年秋季市場では349,596円にまで下落しており、市場の収入にも影響を与えている（図3）。

平成30年7月より、畜技センターはキャトルステーション事業（CS事業）を実施し、農家から子牛を買い上げて育成し、希望する生産者に対しては売り戻し、売り戻しを希望しない生産者の牛は市場へ出品している。平成31年春季市場からCS事業による牛の出品（CS出品牛）が始まり、出品頭数に占める畜技センターの割合は増加傾向を示している（図4）。令和4年以降では84.8～95.7%を占め、さらに、畜技センター出品牛のうちCS出品牛の割合は同時期で65.2～84.1%と多くを占めるようになっている（図5）。

子牛価格の低迷に伴い市場手数料は減少傾向にあるなか、畜技センター出品牛およびCS出品牛の市場手数料における割合は年々増加し、令和元年にはそれぞれ34.8%および14.9%であったものが、令和5年には89.2%および70.5%と多くを占めるようになり、市場の運営は畜技センター、特にCS事業に大きく依存する状況となっている（図6）。

このような中、CS事業の運営方法が、繁殖・肥育一貫経営農家に対しては令和6年4月1日生まれ以降、和牛繁殖農家に対しては令和7年4月1日生まれ以降の牛について、全頭売り戻しと変更する方針が令和6年1月に示された（図7）。この変更に伴い、繁殖・肥育一貫経営農家由来のCS出品牛は令和6年秋季

市場で、和牛繁殖農家および酪農家由来のCS 出品牛は令和7年秋季市場でセリ売りが終了となることから、その後の出品頭数は減少し、市場の運営に大きな影響を及ぼすと予想される。

このような状況とともに、施設・設備の老朽化や耐震性、市場周辺の宅地化や家畜運搬車の大型化による敷地の狭隘化等の問題は解決されないままである。

### 3. 考察

このような状況で、市場の運営が今後継続可能かどうか、今後の資産の推移を想定した。想定的前提条件を図8のとおりとし、令和6年夏季市場より老朽化したセリシステムをレンタルでの運用に変更、CS事業の変更に伴う出品頭数への影響として、令和7年春季市場以降、繁殖肥育一貫経営農家由来のCS出品牛に相当する牛の10頭減、令和8年春季市場から和牛繁殖農家および酪農家由来のCS出品牛に相当する牛の12頭減が生じると想定すると、令和7年夏季市場時に施設解体等の費用、令和9年夏季市場時に全資産が枯渇するという結果となった(図9)。

CS事業の運営方法の変更に伴う出品頭数および市場手数料(収入)の減少、施設・設備の老朽化への対応に伴う経費の増加により、市場の財務状況の悪化は避けられないものと思われる。その他、これまでの課題も残る中、CS事業の変更を機会に、市場の今後のあり方について、早急に検討を進める必要がある。

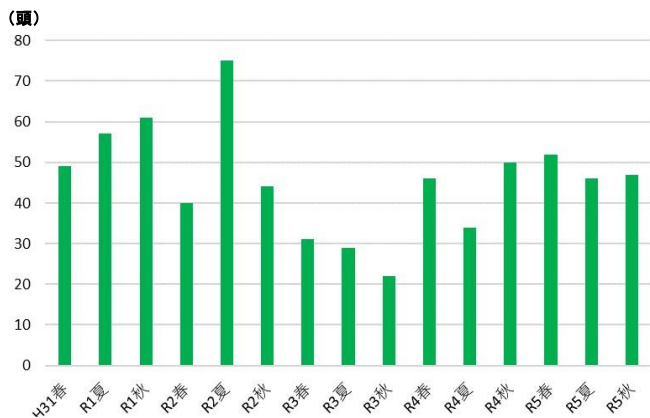


図 1. 出品頭数の推移

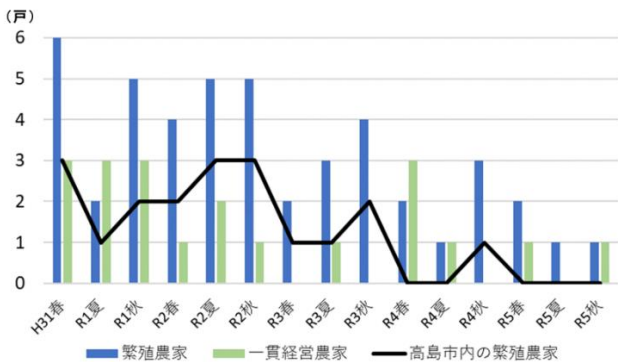


図 2. 出品農家数の推移

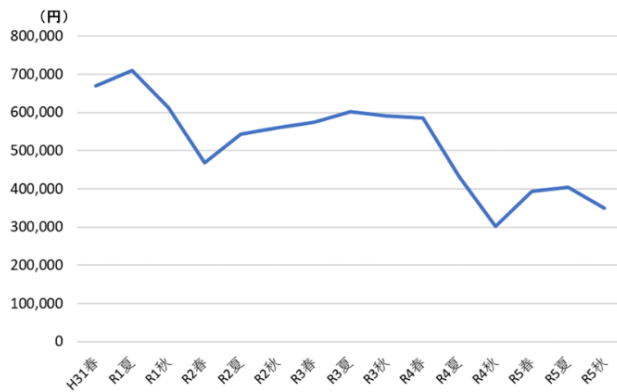


図 3. セリ落とし価格 (1頭平均)の推移

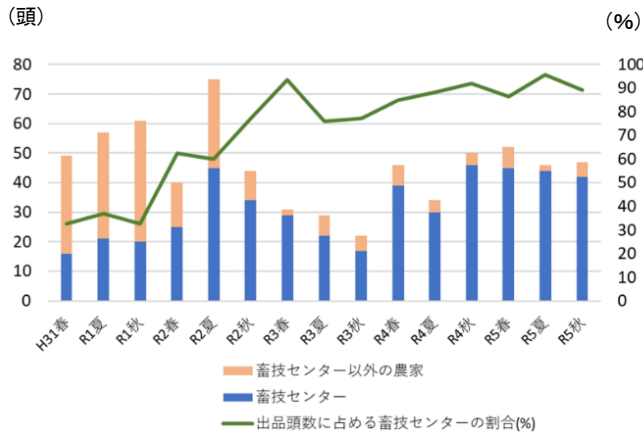


図 4. 出品頭数に占める畜技センターの割合

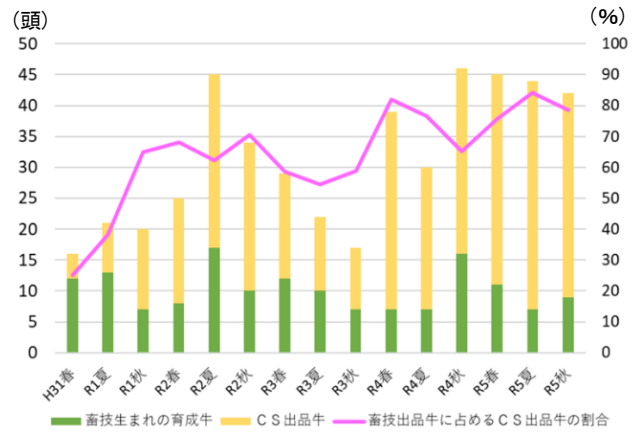


図 5. 畜技センター出品牛の頭数およびCS出品牛が占める割合の推移

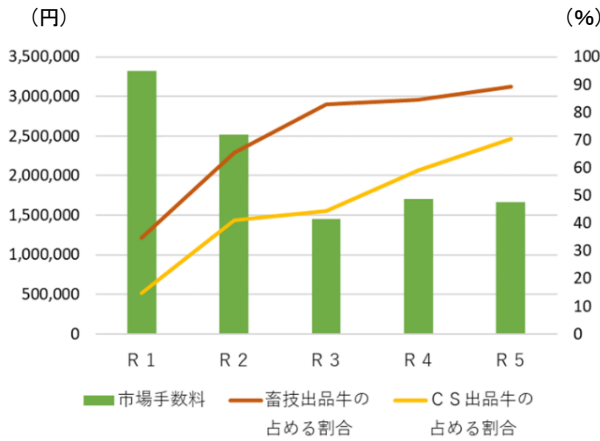


図 6. 市場手数料の推移(年次別)

**現在**

- 売り戻しを希望する農家  
→ 買い取り価格+飼養実費
- 売り戻しを希望しない農家  
→ 畜技センターで育成後、高島市場へ出品

**変更後**

- **全頭売り戻し**
- 繁殖・肥育一貫経営農家：令和6年4月1日以降  
→ 令和6年秋季市場でせり売り終了
- 和牛繁殖農家・酪農家：令和7年4月1日以降  
→ 令和7年秋季市場でせり売り終了

図 7. CS事業の運営方法

- 出品頭数・平均価格  
(出品頭数が40頭前後で安定している令和4年、5年をベース)
- 出品頭数: 45頭(畜技40頭、繁殖・酪農3頭。一貫2頭)  
(畜技の内訳: CS育成31頭、畜技育成9頭)  
(畜技CS育成の内訳: 酪農・繁殖112頭、一貫19頭)
- 平均価格(1頭当たり): 408,222円
- 令和6年度当初の繰越資産: 6,500,000円
- 年平均支出額: 1,200,000円(令和2年~4年の平均)
- 施設整備費: 300,000円
- 施設解体撤去、舗装撤去の経費: 4,573,800円  
(2020年10月の見積額 2,541,000円の約1.8倍)
- セリシステムのレンタル料: 1開催あたり500,000円
- CS事業: 全頭売り戻し(和牛子牛)  
繁殖肥育一貫経営農家: 令和6年4月1日以降  
酪農家、和牛繁殖農家: 令和7年4月1日以降

図 8. 想定的前提条件

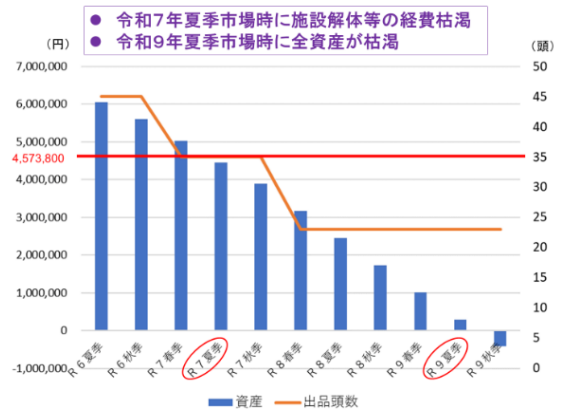


図 9. 想定